

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 65人 |
| ② 算数 | 65人 |
| ③ 理科 | 65人 |

5 留意事項

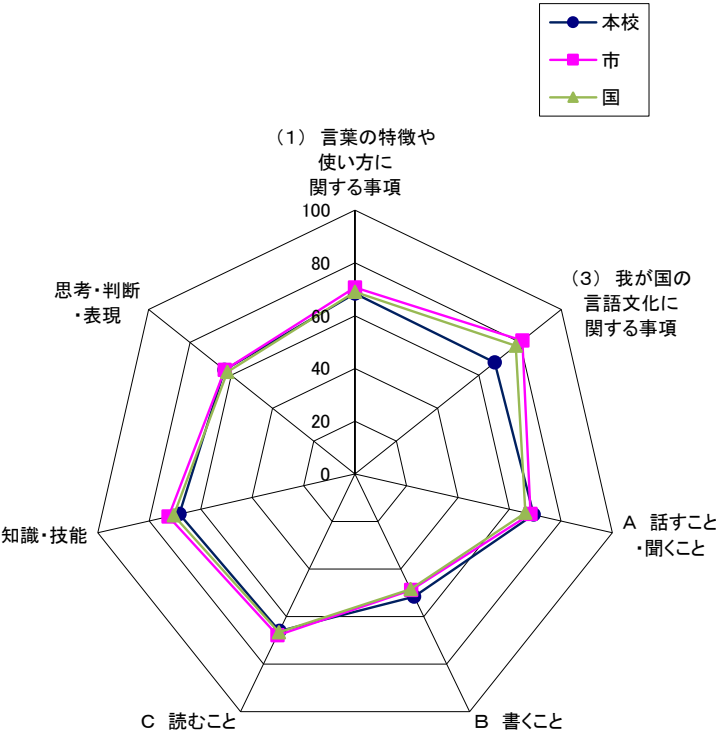
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.4	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	67.7	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	69.4	68.2	66.2
	B 書くこと	51.6	48.9	48.5
	C 読むこと	66.1	67.9	66.6
観点	知識・技能	68.3	72.5	70.5
	思考・判断・表現	63.3	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

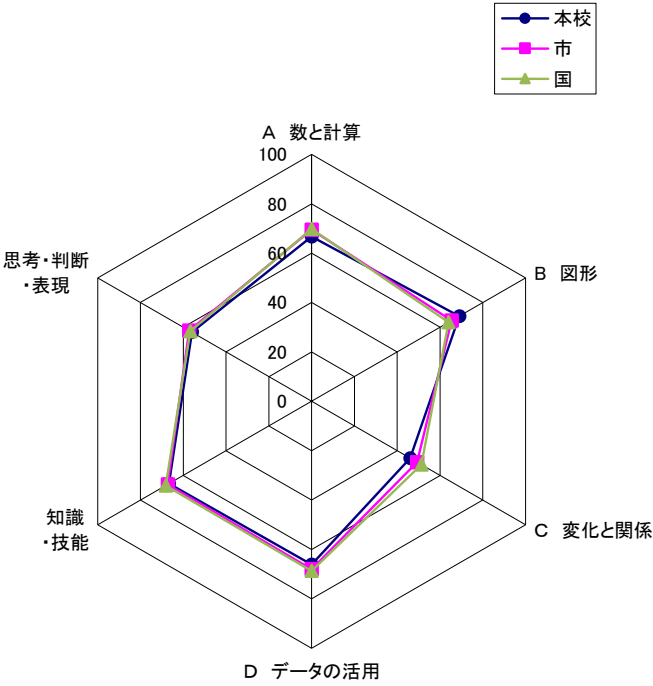
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は68.4%で、市の平均正答率より2.3ポイント下回っている。 ●文章の意味に合わせて漢字を適切に使うことに課題がある。 ●言葉には相手とのつながりを作る働きがあることを、話し合いの様子から捉えることに課題がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字だけでなく小学校で学習する常用漢字も含め、AIDリルなども活用して繰り返し練習したり、確認テストなどを実施したりして基礎基本の定着と習熟を図る。 ・授業の感想や振り返りを書く場面などで、漢字を使って書くことを意識するように指導し、文章の中で使えるようにしていく。 ・言葉の働きに気を付けて話し合いを進めていたかどうかを振り返る場を設定する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は67.7%で、市の平均正答率より13.4ポイント下回っている。 ●漢字や仮名の大きさや文字の配列に気を付け、読みやすさを考えて書く力が不十分である。	・手紙を書くなど、漢字や仮名の大きさや文字の配列に注意して書く活動を設定し、相手にとって読みやすい文や文章になっているかを意識するように指導する。 ・書写の学習で学んだことを、日常生活で生かすことができるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は69.4%で、市の平均正答率より1.2ポイント上回っている。 ○話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができていない。 ●互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。	・話し合いの場面では、質問するだけに終始せず、質問して分かったことを基に自分の考えを表現できるように指導する。 ・話し合いの目的や方向性を明確にするようにしてから話し合いを始めるようにするとともに、互いの意見の共通点や相違点など、様々な視点から検討したことを基に、自分の考えをまとめることができるようにする。
B 書くこと	平均正答率は51.6%で、市の平均正答率より2.7ポイント上回っている。 ○文章全体の構成や書き表し方に着目して文章を整えたり、伝え合った感想や意見を基に、自分の文章のよいところを書いてまとめたりすることができている。	・書く相手や目的に応じ、読み手にとって分かりやすい文章にしたり、伝えたいことをより明確にしたりすることを意識して、文章を読み直し整えることができるように指導する。 ・互いの書いた文章を読み合い、具体的に感想や意見を伝え合う場面を設定し、伝え合ったことを基に、自分の文章のよさに気づき、そのよさについて、言葉で表すことができるようにする。
C 読むこと	平均正答率は66.1%で、市の平均正答率より1.8ポイント下回っている。 ○物語の登場人物の人物像や全体像を具体的に想像することができている。 ●叙述を基に、登場人物の気持ちや相互関係を捉える力が不十分である。	・日常の読書活動においても、優れた叙述に着目して読んだり、感想の交流をさせたりする。 ・「どんな物語か」だけではなく、「どのように描かれているか」という表現面に着目して読むように指導する。 ・登場人物の行動や気持ちを捉える際に、「どこからそう思ったのか」など、基になる叙述を明らかにして指導していくようにする。 ・登場人物の相互関係を、複数の描写に着目して読み、展開に合わせて人物相関図などで表す活動を取り入れる。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.7	69.5	69.8
	B 図形	69.0	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	46.0	49.3	51.3
	D データの活用	66.1	68.0	68.7
観点	知識・技能	66.7	67.3	68.2
	思考・判断・表現	56.0	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

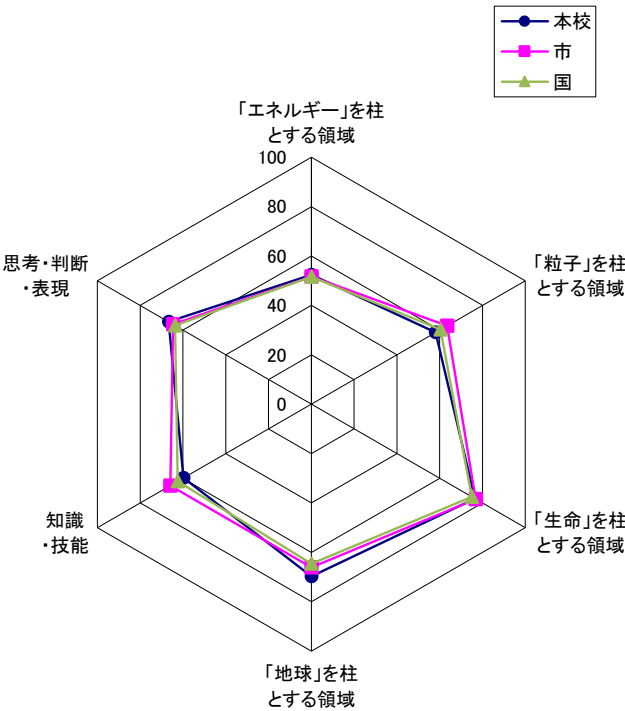
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は66.7%で、市の平均正答率より2.8ポイント下回っている。 ○示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することは理解できている。 ●被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることに課題がある。	・計算の順序やきまりを使ったり、空位のある整数の乗法では位に気を付けたりして正しく計算ができるように、AIDリル等を活用して繰り返し練習問題に取り組み、基本的な計算の定着を図る。 ・問題場面の数量の関係を捉え正しく立式できるように、様々な問題に取り組みせるとともに、個の力に応じて習熟度別学習を取り入れる。 ・日常生活の場面や算数の学習場面で、二つの数の倍数や約数を調べ、最小公倍数や最大公約数の意味について確実に理解できるようにする。
B 図形	平均正答率は69.0%で、市の平均正答率より3.6ポイント上回っている。 ○図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解できている。 ●示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、何の図形であるかを判断する力は不十分である。	・図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を多様に考えることができるようにする。 ・辺の数や辺の長さ、角の大きさなどに着目し、作図の手順からできる図形を予想したり、実際に作図したりして、図形の意味や性質について理解を深める指導をしていく。 ・作図の仕方を筋道を立てて説明することができる活動を取り入れる。
C 変化と関係	平均正答率は46.0%で、市の平均正答率より3.3ポイント下回っている。 ○示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解できている。 ●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することに課題がある。	・日常生活の中で、二つの数量の関係を表す数である割合が変わらないことを体感できる活動を多く取り入れる。 ・具体的な場面と関連付けながら割合について理解を深めたり、図を使って数量の関係を捉えて式を立てたりすることができるよう、指導の充実を図る。 ・伴って変わる二つの数量の関係を表に整理し、一方の数量のみに着目するのではなく、二つの数量がどのように変わっていくかに着目し、比例の関係を捉えられるように指導する。
D データの活用	平均正答率は66.1%で、市の平均正答率より1.9ポイント下回っている。 ○目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができている。 ●表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることに課題がある。	・日常生活の中で、必要なデータを集め、観点を決めて整理し、目的に応じてデータの特徴や傾向を考察できるような活動を取り入れる。 ・得られた結論について、その目的に応じて異なる観点や立場から多面的に考察する場面を設定する。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.4	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	58.1	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	76.5	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	69.7	66.1	64.6
観点	知識・技能	59.7	65.9	62.5
	思考・判断・表現	66.7	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は52.4%で、市の平均正答率より0.7ポイント上回っている。 ○自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に実験の方法を検討して改善し、自分の考えをもつことができている。 ●問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録することに課題がある。	・実験の手順を絵図等を用いて分かりやすく記述したり、実験結果を適切な項目の数値で表にまとめたりする活動を繰り返していく。 ・実験結果について、具体的な数値やそれを分析した内容などを根拠として、自分の考えを筋道立てて説明する場面を設定する。 ・問題を的確に把握し、観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録するなど、観察、実験に関する基本的な技能を確実に身に付けるよう指導する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は58.1%で、市の平均正答率より5.4ポイント下回っている。 ○自然の事物・現象から得た情報を、友達の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することができている。 ●実験器具の名称を正確に理解できていない。	・使用する器具の名称を確認したり、正しい扱い方を理解させるなどしてから実験に取り組むようにする。使用する機会の少ない器具については、一人一人が操作の体験ができるようにする。 ・自然の事物・現象から得た事実について、自分や友達の気付きを基に分析し、事実を比較したり、相違点や共通点を捉えたりすることができるように、グループでの話し合い活動を充実させる。また、全体で交流する機会を設定し、学び合いを深めるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は76.5%で、市の平均正答率より0.3ポイント下回っている。 ○観察などで得た結果を、友達の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができている。 ●自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。	・話し合い活動を増やし、自分と友達の意見をワークシート等を用いながら比較検討し、自分の考えをもつことができるような活動を行う。 ・今後も児童主体でねらいに沿った学習問題を考えさせることで、多様な考え方や方法をもって課題解決にせまることができるように支援していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は69.7%で、市の平均正答率より3.6ポイント上回っている。 ○観察などで得た結果を、結果から言えることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができている。 ●予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことに課題がある。	・習得した知識を活用し、日常生活との関わりの中で捉え直す機会を設定し、知識をより深く理解できるようにする。 ・観察、実験などで得た結果と既習の内容や生活経験とを関連付けながら、結論について捉えられるようにする。 ・一人一台端末を効果的な補助ツールとして使用し、蓄積した観察記録などを比較検討したり、考えを言語化したりして、伝え合う活動を取り入れる。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○基本的な生活習慣等に関する質問では、朝食を毎日食べていると答えた児童が97.0%で、県より2ポイント上回っている。今後も、学級懇談や各種だよりなどを通して、継続的に基本的な生活習慣の大切さを啓発し、家庭での協力が得られるようにしていきたい。

○「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか」という質問では、友達や家族に聞いたり自分で調べたりすると回答した児童が県の平均を上回っている。今後も、家庭学習の習慣がさらに定着するように、継続して指導していくとともに、「清原っ子の学習の約束」を活用して、自主学習の充実にも取り組んでいきたい。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問では、肯定的回答が58.4%と、県の平均より2.9ポイント上回っている。地域の活動が盛んであり、児童と地域のつながりが深いことが分かる。今後も、総合的な学習の時間で宇都宮学の学習に取り組んだり、道徳の時間で地域の偉人である「荒井退造」の生き方考え方に触れたりすることで、地域や社会について関心をもち、郷土愛を高められるように、継続して指導していく。

●「自分にはよいところがあると思いますか」や「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」など、自己有用感や挑戦心を問う質問では、肯定割合が県の平均より20ポイントほど低い。今後は、今まで以上に児童の様子をよく見て必要な指導をしていきたい。機会を逃さずに称賛したり、積極的に児童に話し掛け、児童の話をじっくり聴くようにしたりするなど、自分の行動や存在が認められていることを実感できるようにするとともに、学級活動などで認め合う場を意図的に設定し、子供同士の人間関係作りも支援していくようにする。また、当番や係活動、委員会活動など一人一人が活躍できる場の設定と活動の充実を図り、責任を果たしやり遂げる達成感や貢献していることが実感できるように指導していく。

●主体的・対話的で深い学びの視点から、授業への取り組みを問う質問では、全ての項目において県の平均を下回っている。今後は、友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにしたり、自分の考えがうまく伝わるように、文章や話の組立てなどを工夫して発表することができるようにしたりするなど、授業の展開と指導の充実を図っていきたい。

宇都宮市立清原南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT等を活用した学習活動の充実を図る。	一人一台パソコンなどのICT機器や図書資料を活用し、自らの課題を解決していけるよう学校全体として取り組んでいる。	授業や調べ学習、発表などの場面で、PCやタブレットなどのICT機器の活用状況を問う質問では、すべての項目で全国や県の割合を下回る結果であった。「学習の中でPCやタブレットのICT機器などを学習で使うのは勉強に役立つと思いますか」の設問の肯定的回答は、80%を上回っている。ICT機器等への関心は高く、活用の効果についても理解していることが分かる。
児童同士の協働的な学び合いを通じた思考力の向上と教師のコーディネート意識した授業の展開	課題を明確にした話し合いを通して、自分の考えを整理したり、深めたりできる「学び合う仲間づくり」を意識した授業の実践を行っている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか」の設問の肯定的回答は、64.6%であり、「自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しているか」の設問の肯定的回答は、47.7%であった。話し合い活動や自分の考えを相手に分かりやすく話すことに、苦手意識を感じている児童がいることが分かる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査では、国語・算数・理科のどの教科においても、知識・技能の定着が不十分であることが分かった。	・基礎基本の定着を図る学習の充実 ・AIDリル等を活用した復習による内容定着を図る指導の工夫	・既習事項を復習する機会やミニテストを継続的に設け、学習内容の定着を図る。 ・AIDリル等を活用し、個の力に応じた学習に取り組めるようにする。 ・発達段階に応じて、家庭学習での取り組み方を提示し、家庭への啓発を行っていく。
友達との伝え合いや学び合いを通して、自らの課題を解決していく力に課題が見られた。	・考えや根拠を明確にして伝え合う機会の設定 ・ICT等を活用した学習活動の充実	・自分とは異なる考えなどに触れることができるように、学び合いの場を意図的に設定する。 ・教師のコーディネート力を高め、考えを深めたり、広げたりできるようにする。 ・ICT等をツールとして活用し、児童が主体的に問題を解決するために、情報を選んだり、整理比較したりして、共有・発信することで思考を深めることができる授業を工夫する。